

第4回 統計技術・データソースの多様化等検討会 議事要旨

(開催要領)

日時：令和3年8月26日(木) 10:00~12:00

場所：オンライン開催

(議事次第)

1 開 会

2 議 事

(1) 行政におけるデータ利活用の推進について

(2) データマネジメントの重要性について

(3) 統計調査におけるDXの活用について

(4) その他

3 閉 会

(配布資料)

資料1 行政におけるデータ利活用の推進 ~EBPM推進・ビッグデータ分析の観点から~

資料2 データマネジメントの重要性について

資料3 スマート農業技術を活用した農業経営統計調査の検討について

資料4 経済センサスへの税務情報の活用について

参考資料1 ビッグデータ連携会議との連携について

参考資料2 統計技術・データソースの多様化等検討会の開催について

(概要)

【(1) 行政におけるデータ利活用の推進について】

農水省(前行革事務局企画官)から、資料1に沿って説明。主な質疑応答の内容は以下のとおり。

- (資料1 8ページ) ビッグデータの調査研究というのは、それぞれのテーマに関係する原課の職員がやっているのか、調査研究を担当する部門があるのか。組織体制を教えてほしい。
- 調査研究自体は統計部で行っているが、テーマは政策部局の要望を踏まえて選んでいる。「農泊」の例についても同様。ただ、調査研究によって

得られたデータは最終的に政策部局に渡すことになるため、どうやってデータを分析していくかなども含めて、政策部局もプロジェクトメンバーの一員として、コミュニケーションを取りながら進めている。

【（２）データマネジメントの重要性について】

一般社団法人日本データマネジメント・コンソーシアム理事兼事務局長、株式会社リアライズ代表取締役社長の西大氏から、資料２に沿って説明。主な質疑応答の内容は以下のとおり。

- （資料２ 33、34ページ）問題のあるデータを一元化していくところでhadoopや人力補完などの話があるが、機械を使ったとしても結局人の力が必要になる部分があり、かなり手間がかかることだと思う。どのくらいのコストがかかるのか、イメージを教えてください。
- AIを活用して効率化できる部分はしているが、全ての揺れを機械で検出することはできないので、どちらが正しいか、（データの）表記が意味として同じかどうかなどの判断については、最終的に人間がやる必要がある。（データの数が）多い場合は、20名近くで半年かけてやることもある。ただ名寄せすればいいというのではなく、データ整備の目的やメリットを確認し、それに沿ってやっていくことが重要。

【（３）統計調査におけるDXの活用について】

農水省から、資料３に沿って説明。主な質疑応答の内容は以下のとおり。

- 今後、何年後にこういった姿を実現したいというような目標があれば伺いたい。
- 今の段階では、AI-OCR や RPA などの導入を引き続き進めていくことを検討している。また、農業経営統計調査については、農林業センサスにあわせて5年に1回調査事項や手法などの見直しを行っており、その中で調査体制の整備ができれば、次の令和9年調査に向けて準備を進めていきたいと考えている。
- ただし、これは調査実施者側の目標。2020年の農林業センサスで農業事業者のデータ活用について調査を行ったところ、大部分の農家ではデータ活用がされていないことが分かった。これは、もともと農家や法人であっても、会計は税理士などに委ねていて自分で経営管理ソフトを活用しているケースは少なく、安易には進まない状況もあると認識している。令和9年調査に向けて、持っている技術は集結させていきたいと思いつつ、やはり農家の方に寄り添いながら進めていくことを考えると、難しい部分もあ

ると考えている。

【（４）その他】

行革事務局から、資料４に沿って説明。

（以 上）